

【秋山弘子氏 講演内容サマリー】

秋山さまは長寿社会の課題を以下の3つの視点でとらえておられ DF10 周年でのご講演の際には以下のうちの個人と社会の視点についてお話をされましたが、個人・社会についてのおさらいと「産業」の視点を主軸にお話しをされました。



- 個人 人生 100 年を自ら設計、舵取りして生きる（多様な人生設計が可能）
- 社会 人口の高齢化に対応した社会インフラ（ハード&ソフトの作り直し）
- 産業 長寿社会対応の産業の創成（Open Innovation のエコシステム）

先ず、個人については『発達と老化』に関する誤った通念について触れられました。人間の能力は生まれてから急速に発達し、25 歳～30 歳くらいでピークに達して、それからは低下していくと考えられていましたがその後、成人期と老年期のさまざまな能力に関する知識は大幅に書き改められています。人の能力は多次元、例えば情報処理能力、言語能力、日常生活問題解決能力など、能力によって発達の仕方が異なり、高齢になっても発達し続ける能力も少なくありません。大切なことは、何歳であってもその時にもっている能力を最大限に活用して働き、暮らすことです。

そして『長寿社会のまちづくり』の取り組みに関して柏市における社会実験の具体的な内容が紹介されました。ここでは様々な形態でのセカンドライフの就労の取組みが紹介されました。

更には世界における潮流の変化として最早「セカンドライフ」という概念ではなく、人生 100 年を前提としたライフデザインと生涯学習、New Map of Life が必要という考え方に変わってきていることが紹介されました。

少子高齢化と人口減少は多くの課題を提起しますが、解決すべき課題が多いことはイノベーションの宝庫であるともいえます。オープンイノベーションの場として世界中

で約 400 の取組みが行われているリビングラボが紹介されました。リビングラボとは、私たち生活者（民）の困りごとやこんな暮らしができたらという夢を産官学民で力を合わせて解決し実現する共創の場であり、イノベーションの場です。5 年前に、人生 100 年時代の新しい生き方と社会の在り方を住民と一緒に考え、モノやサービス、政策を創る鎌倉リビングラボが設立されました。

具体的には『鎌倉リビングラボ』の活動内容が詳しく紹介されました。

（HP も是非ご参照ください <https://www.kamakurall.cc-aa.or.jp/> ）

本年 11 月には人生 100 年時代の新しいライフスタイルのひとつとして「Mobile Life」をテーマに産官学民が共創するイベントを鎌倉の由比ガ浜海浜公園で開催予定ということでした。

因みに秋山様ご自身のセカンドライフのご紹介もされ、SDGs の実践として持続可能な社会を維持していくためには、生きるために不可欠な「食」が維持できること、それが安心・安全であること、そして誰もが、いつまでも健康で長く、生き生きと生活し続けられることが必要との理念に基づき、そのキーワードが「農業」ということからサミーズファームという会社を立上げられ実践に取り組まれています。

（ <https://www.samys-farm.com/> ）

以上。

【質疑応答：藤村副所長】

Q1（会員）：

10 年前に秋山先生から毎日 6 人に会えば健康を維持できるとお聴きして実行してきたお陰で 85 歳の今も元気でいられます、と感謝のコメント。

Q2（会員）：

老人の孤独化・孤立化がもっと進むと思うがこの点については如何でしょうか？

A2：家族構成も変わり後期高齢者世帯が増えていて欧米でも非常に大きな課題とな

りイギリスでは孤独担当大臣を置くほどの問題認識となっている。

65 歳以上の人口が 50%、80 歳前後の人口が多い典型的な郊外住宅地である鎌倉今泉台地区でも深刻な問題となっている。リビングラボは住民が家から出て、人と交わる機会をつくっている。さらに自分が参画した活動から商品が生まれ、様々な意見交換で新しい人との繋がりが広がり、町の未来を考えるようになることによって、さまざまな波及効果が生じている。「あくね」という鹿児島島の離村と鎌倉が連携を始めており、阿久根の魚屋と連携し、クラウドファンディングも活用し自治会の人々が中心となって街の台所づくり・コミュニティ化・コミュニティガーデンづくりなどが進み若い人とのつながりも広がってきて結果、若い人も住み始めて小学校の生徒数も増えてきた。

以上（文責 新庄正彦）